

公益社団法人 私立大学情報教育協会
平成 25 年度 第 1 回 歯学教育 FD/ICT 活用研究委員会 議事概要

I. 日 時 平成 25 年 1 月 24 日 (火) 12:30~14:30
場 所 公益社団法人 私立大学情報教育協会事務局会議室

II. 出席者 神原委員長、新井委員、佐藤委員、花田委員 (ネット参加)、奥村委員、藤井委員
(事務局 井端、森下、平田)

I. 検討事項

今年度は教育の質的転換に向けた教育改善の促進を目指して、昨年度とりまとめた「ICT を活用した分野別の教育改善モデルの提言」と、それに対するサイバーFD 研究員の意見を踏まえて、学生の能動的学修 (アクティブ・ラーニング) を実現していくための効果的な取り組み方や教員の職能開発等について、今後の研究課題を検討することになっている。そのため、今回は、歯学分野における教育改善モデルに対するサイバーFD 研究員の意見を確認した他、モデル実現に向けた来年度の研究課題について検討した。

(1) 主な意見と対応

平成 25 年 7 月および 9 月に 1080 名のサイバーFD 研究員にアンケートを送ったところ、21 件の意見が寄せられた。主な意見と委員会としての対応は以下の通り。

- ・「予防的態度を寛容する根拠・EBM の視点が欠けている」との意見については、教育改善モデル「第 1 節 歯学教育における教育改善モデルの考察」で「エビデンスの歯科医療現場への導入が欠かせない。」としており、指摘の点は含まれていることを確認した。
- ・「全体的に学生の学修範囲がかなり広範囲であるので、学生の当該分野での習熟度に十分配慮して、教育改善の範囲を絞った方が各大学での情報共有が進むように思われる」との意見については、本モデルは「口腔疾患の予防と健康管理」について 6 年間の歯学教育で必要と思われる内容を提案しており、今後、モデルを参考にして各大学で必要な教育を選択し取り組んでもらう方針であることを確認した。
- ・「ICT を活用した教育、ネット上での PBL 型学習等に関する設備、他職種間の連携・協力といったネットワークの構築、設備等をどのように実現するか、具体的な配慮が必要。」との意見については、今後どのように実現していくべきか本委員会で検討していく課題であることを確認した。
- ・「国際的、特にアジア地域のリーダー的な立場をとれるようなモデルの構築が必要。」との意見については、モデルの「2. 改善モデルの授業デザイン」「2.3 授業に ICT※を活用したシナリオ」において、「④ 口腔疾患の予防を地域・国レベルで推進できるよう、医療の分野を超えて多面的な観点から総合的な予防対策を考えさせるため、対面とネット上で他分野の教員や社会の専門家からの知見を収集し、意見交流させる。」と提案しており、指摘の点は含まれていることを確認した。
- ・「ICT を活用することは必要であるが、地域社会との協力体制をどのように構築するのか、また、その財源をどこからもってくるのか。」との意見については、地方自治体との連携に

よる取り組みも、これからの歯科医療の一つの課題であることを確認した。

これらのアンケートの意見を踏まえ、総合的な歯科医療を目指した本モデルは、実現の可能性は別にしても各教員にほぼ賛同を得られていることを確認したため、再度各委員で見直しを行い、趣旨が理解されにくいと思われるような表現があれば、次回委員会で修正することにした。

(2) モデル実現に向けた研究課題

歯学教育は社会の変化に対応した教育を実現していく一方で、歯科受診の経験のない学生もいる中で体験型の学修が必要で、知識偏重でない総合的な能力を判断できるよう国家試験の在り方も検討していくべきであることを確認し、次回委員会で研究課題について詳細を検討することにした。

2. 次回までの課題

アンケートを踏まえ、教育改善モデルの表現について修正すべき点があるかどうか各委員が見直しを行っておくことになった。

3. 次回委員会

平成26年1月31日(金)10:30より開催し、アンケートを踏まえて教育改善モデルの修正について再度検討する他、モデル実現に向けた本委員会の来年度の研究課題について検討することにした。